

職員による自己評価

A 環境面

- ・パーティションを利用した、支援スペースの活用。
- ・室内の段差はほぼなく、窓枠にクッション材を張るなど安全に配慮している。

B 児童への支援内容

- ・日々のミーティングで検討を重ね、支援に反映できるよう周知徹底を行っている。
- ・利用児童の高学年化に伴い下校時間が遅くなってきたので、平日の外出（公園）が減った。

C 関係機関との連携

- ・必要に応じて会議へ参加し、近隣事業所と同一児童の情報交換やカンファレンスを行っている。

D 保護者への説明責任・信頼関係

- ・送迎時に日々の様子や今後の予定などをお伝えしている。

E 非常対応

- ・十分とは言えないが、避難訓練や災害を想定した移動手段の検討を行っている。

保護者による評価

A 環境面

- ・広々としたスペースが確保されているが、今後利用児童が増えたら狭くなるのではないか。

B 児童への支援内容

- ・学校休業日以外の外出（公園）が減った。
- ・送迎時に利用中の様子を伝えてくれている。
- ・子どもの様子を見ながら支援を工夫してくれている。

C 事業所からの情報発信

- ・定期的なお便りはないが、送迎時に子どもの様子や活動内容を詳しく報告してくれている。

D 非常対応

- ・子どもに変化があれば、すぐに連絡をしてくれている。
- ・家庭の状況に合わせて送迎してくれる。

事業所内での分析

【共通点】

- ・日々の送迎時に子どもや活動内容の報告をすることで、利用時の様子を知る事（伝える事）ができています。支援に関しても情報交換が行えている。
- ・子どもの様子に合った活動が展開できている 特に学校休業日の外出は子ども・保護者共に定着しており、楽しみにされている。

【相違点】

- ・支援スペースの広さは現在では十分だが、今後子どもの人数が増えた時には狭いのではないか。
- ・保護者会や交流会を開催していない……就労されている家庭やひとり親家庭が多く、実際に開催してもどれだけの参加があるのか不明。また、家庭の負担が増えるのではないかが懸念される。

分析・検討してみて…

事業所の強み

- ・送迎時のご家族とのコミュニケーション
- ・学校休業日の活動内容が現在利用されている子ども・保護者の希望とマッチングしている（特に外出）
- ・ひとりひとりに合った支援の展開

事業所の改善点

- ・定期的な広報誌（お便り）の発行
- ・子どもの人数が増えた時の支援スペースの確保（レイアウト変更を検討する）
- ・保護者会や交流会開催の検討

事業所の改善への取り組み

- ・支援スペースのレイアウト変更
- ・新年度より年4回を目指し、ご家庭向けの広報誌の発行の検討
- ・各家庭にアンケートを実施し、保護者会や交流会の開催を検討する

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

今回の自己評価を行った事で、事業所の方針や活動内容が現在利用されている子どもやご家族の要望にほぼ添えていることが確認できました。しかし事業譲渡に伴い、準備などに奔走していた感があり、十分な点検・改善を行うことができませんでした。より子どもやご家族に寄り添う活動内容を展開したいと思いました。

事業所名 フレンズ弥生台

担当者 大橋雅男